



## 私のひとこと

### 曇天の下で若者たちは考え始めた

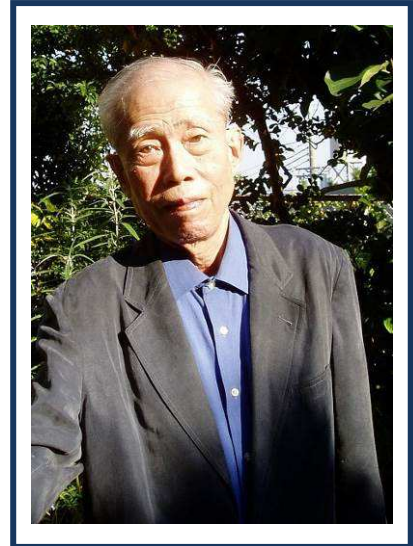
安倍政権の暴走が続き、改造内閣は右派で真っ黒、朝日新聞が慰安婦問題の誤報で謝罪したのをきっかけに、朝日叩きが始まり、歴史修正主義者の魍魎魍魎が跋扈し始め、識者の中から「今の世の中の空気は、戦争に突っ込んで行った戦前の状態にそっくりではないか」といった発言が続き、表面的には、今にもどしゃぶりに変わりそうな曇天に覆われた、真っ暗な世の中のように見えます。

しかし、その奥深いところでは、安倍晋三という人物が、薄ペラな、嘘とごまかしとハッターまみれの男であり、彼が日本をどのような国にしたいのかが、次第に国民の中で明らかになりつつあるのではないのでしょうか。特に、集団的自衛権容認の閣議決定を行って以降、日本の民主主義、平和主義、基本的人権などについて、若者たちが深く考え始めたようです。

朝日新聞の7月4日の声欄に投稿された若者の意見を紹介します。「集団的自衛権の行使容認が閣議決定されました。偉い人たちは、政治的な難しい理屈を唱えています、それ以前に人として大切なことが見えなくなってしまうように私には見えます。いつだって戦争を起こすのは国の偉い人達です。なのに、実際に死ぬのは私達若者です。もしも日本が戦争に参加することになれば、私たち今の小・中・高生が苦しむことになるのだと思います。安倍晋三さんたちは、自衛隊の人たちや一般の国民を傷つけ、心と人生をぐちゃぐちゃに壊したいのですか。日本の人たちの生活より、アメリカの偉い人達のご機嫌の方が大切なのですか。憲法解釈をねじ曲げ、他の国の人を傷つけることで得られる平和なんて私はいりません。人の命より大切なものはないことぐらい、ちいさな子供も知っています。政治家さんたちは、それを忘れてしまったのでしょうか」(女子高生、16歳)

ここにこそ、日本の未来がかかっていると信じます。日本の将来に栄あれ！！

(九条の会. ひがしなだ 事務局長 中村陽一)



**緊急連絡！！**

**10月6日(月)の憲法いっせい宣伝**

**阪急「岡本」、阪神「御影」は朝7:30から**

九条の心ネットワーク、憲法改悪ストップ兵庫県共同センターなど兵庫県の憲法6団体が、10月6日午後6時から、集団的自衛権行使容認に関する閣議決定に反対し、安倍内閣の暴走を阻止する統一宣伝行動を行ないます。

兵庫県下の主要ターミナル 58 駅（9 月 25 日現在）、夕刻 6 時から、一斉に始めるのが基本ですが、東灘区では阪急「岡本」駅、阪神「御影」が朝 7：30～となります（JR「住吉」駅は午後 5：30～）。九条の会・ひがしなだは、阪神「御影」駅（朝 7：30～）を基本に、実情に応じて阪急「岡本」、JR「住吉」への参加を呼び掛けています。

## 平和随想

### 人として生きられる未来を目指して

八木和也

私は今、41 歳ですが 90 年代まで、憲法改正論者でした。湾岸戦争に派兵できない日本で、かっこわりーって、本気で思っていました。でも、戦争を学んで変わりました。弁護士になって、韓国や沖縄へ、ピースツアーに行きました。沖縄では、ひめゆり学徒の生き残りの方にお話を聞きました。「米軍がどんどん迫ってきました。市民も軍人も一緒になってガマへ逃げ込みました。ガマの奥が軍人、入り口付近が市民。生まれたての赤ん坊を抱いた母親がいました。赤ん坊が泣き出してしまい、泣きやみませんでした。軍人は母親に泣きやまずよう命令しました。母親はガマを出て行き、戻ってきた母親は、赤ん坊を抱いていませんでした」。その世界は、想像を絶する地獄であり、人が人であることを不可能にする。こうした地獄を体験した人たちは、耐え難い負の感情を持って生きていくことになってしまう。だから人類がこれからも存続し、発展していけるか、それは戦争を克服できるかどうかにかかっている。今はそういう思いで、平和問題に取り組んでおります。

（明日の自由を守る若手弁護士の会兵庫支部長）

## 9条の会訪問記(その33) 北夙川・九条の会

### まさに「継続は力なり」、ビデオ・映画など多用して

「あと 1 人来てくれたら、9 人になるんだけどなあ」——そんな状態でスタートしたのが 2005 年 6 月 18 日。誰が代表で、誰が事務局長なのか、いまだに定かではないが、それでも 5 人の世話人（事務局）を軸に、まさに「継続は力なり」の歩みで、今年 9 月 20 日（土）には、48 回目の例会を迎えました。

この日のテーマは「集団的自衛権行使容認で失われるものは何か?」。司会進行役の元 NHK アナウンサー・西崎正泰さんは、「ビデオを活用して話し合ったり、映画鑑賞などを多くしたのも、長続きしてきた要因かな」。これを CM 風に言えば「少し愛して、長〜く愛して」。会員に歌人など文化人が多いのも特徴的です。

もう一つは、「憲法集会や他の九条の会の催しへの参加も、例会とする」という柔軟な運営。

さっそく、11月15日（土）には、西宮市内11の「九条の会」によるネットワーク主催の「若手弁護士と憲法を楽しく学ぶつどい」（西宮勤労会館）が待っています。「劇団あすわか」による寸劇「せんそうがおきるまで」の上演に続けて、「最近流行の憲法カフェ風・情勢報告」が“目玉”となっています。



報道番組のビデオを見て話し合う

## 大盛況の「標的の村」上映会 三上監督の講演に“立ち見”も

映画「標的の村」上映と三上監督の講演の集いが9月27日、芦屋市・上宮川文化センターで行われ、あふれ返るほどの大盛況となりました。「標的の村」は、安倍政権が昨年12月に特定秘密保護法を、強行成立させたことで反響が大きくなりました。今年7月1日の集団的自衛権の行使容認の閣議決定で、坂道を転げ落ちるような日本のことを考える人が増えたからでは、と思われまます。辺野古での闘いの先頭には、沖縄戦を経験した、おじい・おばあ達の姿があり、「人柱になって止める」と身を挺して頑張ってきました。戦後も、沖縄は引き下がれない闘いばかり強いられています。しかし、この事実が全国に伝えられていません。三上さんは、今後も沖縄から発信していきたい、と締めくくられました。

この映画は、何回観ても泣ける。なぜ、沖縄（高江村）だけが、標的にされるのか！鋭く描かれています。

大きな賞を、総ナメにしたことも頷けます。若い学生が、先生に勧められて観に来たとのこと。嬉しい限りです。

この日は、2回の上映と講演で300人強の方々にご来場いただき、また、三上さんの次回作品製作カンパも23万8千円ほど集まり、全額を三上監督ご本人に手渡しました。

久家登志子（東灘区魚崎南町在住）



「映画は満席。監督の話には立ち見も」（撮影＝西岡喜久男さん）

催し案内

神戸憲法集会

11月3日(月、祝)

13:30開演

神戸新聞松方ホール

講演①

安倍政権の改憲新段階と日本の行方

一橋大学名誉教授・渡辺治さん

講演②

アフガン、シリア戦争から考える戦争のリアル

ジャーナリスト・西谷文和さん

2市2町「9条の会」平和と文化のつどい

10月12日(日) 14:00〜

加古川市民会館

オープニング・ピアノ演奏

大上結歌さん

記念講演「私と憲法」

ジエームス三木さん

2市2町「9条の会」平和と文化のつどい

実行委員会

問い合わせ 079・426・9193

〈高橋さん〉

憲法カフェ

10月12日(日) 14:00

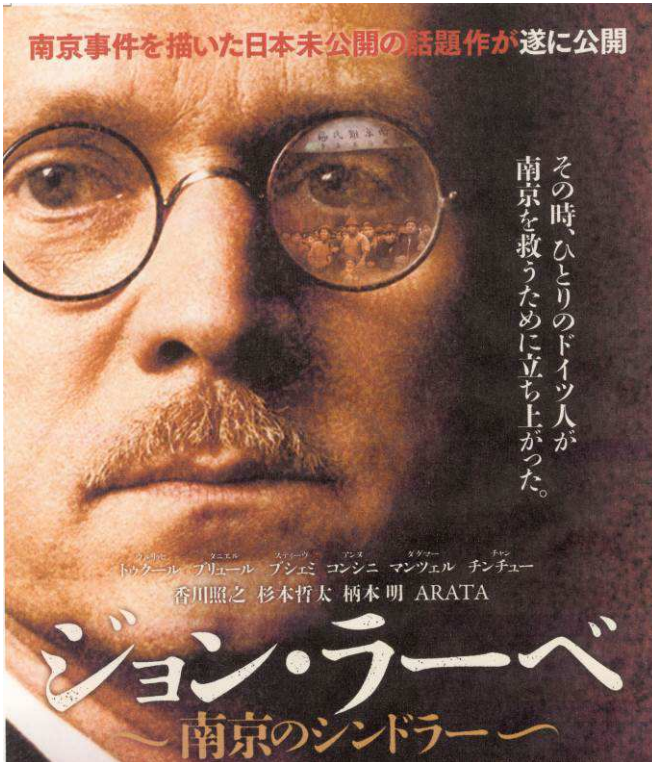
フォアベルクホール【エスリード三宮フラワーロード：地階】

講師／吉江仁子 弁護士

(明日の自由を守る若手弁護士の会・兵庫支部事務局長)

問い合わせ 078・991・9080

〈子どもと守る9条の会〉



ジョン・ラーベ 彼は悪名高

きナチス党员だった

1937年、日本軍による南京

陥落を前に、命がけの人道支援

を決断する。

11月24日(月、休)

神戸アートビレッジセンター